モンスターがいる意味

外面的：倒す存在

内面的：

・過去のけじめとして怒りに燃えるパートナー

・トラウマの存在であるためもう二度と会いたくない。

パートナーのいる意味・解釈が違う自分

運び屋のいる意味 ・トラウマの殻を破ってくれる人

主人公の葛藤 ・モンスターから逃げるかパートナーの手助けをするか

モンスターと戦う理由 ・過去のけじめとして戦わなければいけない

本当のトラウマの現況

・町をあのモンスターに壊されたことで仲間を失ったことが悲しい

だからもう二度と失いたくないから戦い続ける。

・町をあのモンスターに壊されたことで仲間を失ったことが悲しい

だからモンスターにもう会いたくないと思った。

登場人物

代永翼・町の崩壊でトラウマになったもの

鳥海浩輔・町の崩壊でより自分が強くなろうとしたもの

玄田哲章・トラウマの正体を教えてくれるもの

ステージ１

最低人物モデル3人

ドラゴン2匹

声優5人

「」セリフ

『』心の声

ナレーションor CとDの会話から始まり回想スタート

草影に隠れながら作戦説明

鳥海「いいかまず俺が足元に攻撃を仕掛ける。襲ってきたら代永がガード、ガードしてる間に俺が上から攻撃、最後に代永がブッ叩くいいな」

代永「…うんでもそんな簡単にいくかな？」

鳥海「大丈夫俺を信じろ、そんじゃいくぜ」

二人とも草影から出る

↓

鳥海が足元を攻撃

↓

モンスターが反撃

↓

鳥海が代永の背後に回り込みモンスターの攻撃をガード

↓

鳥海が上からジャンプして追撃でモンスターがひるむ

↓

鳥海「いけ！代永！」

ここで一瞬過去のトラウマの絵を出す。

飛び込んで決めると思いきや、代永の中でトラウマな過去が思い出し攻撃を途中で止めた。

少し悔しそうな顔をして 鳥海『まだきつかったか』

モンスターがしっぽで攻撃しようとする

動けない代永を無理やり後ろに引っ張って

鳥海「いったん下がれ！」

代永は下がって盾でガード構えをしながら震える。その間にモンスターを倒す鳥海 ここはほぼSEのみ

の様子で 鳥海「ふぅ～う 終わったぜ」

空を見上げる等のカットを入れる

代永『僕は代永翼とあるトラウマがあっていつも助けられてばかりなんだ、この人は鳥海浩輔。通称：とりさん 僕の幼なじみで小回りが利く僕の中では一流ハンター』

鳥海「いやーしかしそこそこいいやつ狩れたな。これなら2,3日は大丈夫なんじゃないか。だがこれじゃあデカすぎて持ち運べねえな。そうだ玄田（運び屋）にでも連絡とるか。」

回想

代永『巨大モンスターに町を破壊されて明け暮れる中僕を拾ってくれたんだ』

回想が終わった後。鳥海がスマホ見たいな端末を使って連絡する。

代永『実際は政府ともめて仲間がいないから仲間にしただけみたいだけど…ああでも鳥さんは大事だと思ってる。かけがえのない存在だと思ってるでも…』

鳥海「よし連絡完了。おい代永！……？」

代永『僕は本当に必要とされているのだろうか？』

代永の顔の前で声をかける鳥海

鳥海「おーい。き・こ・え・て・る・か？」

代永「えっ何？」びっくりした顔

鳥海「ったく一応任務中なんだぜ？ボサッとすんなよ。とりあえずさっき倒したモンスターがデカくて運べそうにねーから運び屋を呼んどいた、それまで待機。いいな？」

代永「うんわかったよ」

時間つぶしの雑談

鳥海「重さとしては運べなくはないが、運んでる最中にモンスターにでも襲われたら、食料と一緒に俺たちも食われちまうなハハ」

代永「…」(少しうつむく)

鳥海「あー。そんなに気を落とすなって。どんなお前でも町のみんなはお前を期待して待ってんだ。悲しい顔 させたくないだろ？」

代永「うん…そうだよね」

鳥海「おっ！きたきた。おーい」

代永「なんかずいぶん砂ぼこりが舞ってるみたいだね」

鳥海「ああ確かにな」

運び屋と巨大モンスターが近づいてくる

巨大モンスターが近づいた瞬間。2人の過去に崩壊された町がよみがえる。

鳥海「あいつは」

鳥海は周りの様子を確認して、洞窟の入り口とさっき倒したモンスターを見る。

鳥海「まずい一旦、隠れるぞ！」

餌に向かって走りながら代永の方を見ると

代永「!・・・。」

代永は震えて動けない。

鳥海「おい」

代永の方に走って向かい背中を叩く

鳥海「しっかりしろ代永！」

ハッと目が覚める。

鳥海が代永の頭を押さえて目をしっかり見る。

鳥海「いいかよく聞け！」

顔を餌と洞窟の方に目を向けて指をさす。

鳥海「2人で餌を持って洞窟に向かう」

鳥海が走り出す。

鳥海「以上だ。いくぞ」

代永「うん分かった」

モンスター中を二人で運ぶ

洞窟前までたどり着いたが、思った以上に運び屋が早くこっちに来てしまい衝突

衝突しながらも巨大モンスター以外は洞窟内に入り身を隠す

鳥海「みんな無事か」

代永「う、うん」

玄田「ふぅ～なんとか助かったぜ」

鳥海「おっさんも何とか生きててよかったな。まあもう少―しおとりになってもらった方がドタバタせずに済んだけどな」

玄田「そんな無茶苦茶なこと言うんじゃね」

鳥海「へへっ さてとこの後どうすっか」

洞窟入り口前を右往左往している巨大モンスター

鳥海「まだこっちの気配に気づいてなさそうだ。今のうちに荷物を積んでおくか」

荷物を縛りながら作戦会議。作戦鳥海:モンスターおびき寄せ・代永:運び屋の援護

鳥海「この重さで駆け抜けることは到底不可能だろう そこでだ俺がおとりになって洞窟から離れるように誘導する スキができたらおっさんと代永は草道抜けて逃げる」

代永「ええっ！危険すぎるよ僕も一緒に…」

鳥海「何言ってんだ。全身震えまくりだったじゃねーか そんな状態じゃかえって足手まといになっちまう それに運び屋が襲われたら誰が守るんだ？」

代永「そ、それは…」

玄田「俺は一人でも問題ねーけどな」

鳥海「そんじゃ代永を安全なとこまでしっかり運んでもらおうか 何かあったらただじゃ済ませねーけどな」

玄田「とんでもねえ要求だな。まあそれだけ大事にされてるってわけか」

鳥海「うるせえ！」

少しうつ向いている代永の方を向く

鳥海「大丈夫だって。少しおびき寄せるだけだ お前たちが逃げきれたらすぐ戻るさ」

振り向いた後小声で鳥海が

鳥海「あの時のけじめ。きっちりつけさせともらうからな」

代永「待って！鳥さん…。」

鳥海「いくぜ！」

鳥海が先に洞窟から出る

代永と玄田をカメラで撮りながら顔アップで玄田を撮る

玄田がいつでも出れる状態で待つ

玄田「準備ができた。乗ってくれ！」

代永が鳥海を気になりながら乗る。

玄田「一瞬が命取りだ！しっかりつかまれよ」

鳥海は奥の方におびき寄せるのに成功

玄田「今だぜ！」

玄田たちは無事脱出成功

鳥海が一発ひるませる技をお見舞いしてから馬車の方を向く

鳥海「うまくいったみたいだな… 」

モンスターのひるみが解けて叫ぶ

運び屋がフォローで走ってるシーン

代永『本当にこれでよかったんだろうか？』

途中エンジン不調になったためメンテナンスに入る

玄田「おっととエンジンの故障か？」

代永『あの一言は無理をするということがわかっていた。』

鳥さんが剣で戦ってるシーン

代永『』

玄田「おーい代永。ちいとエンジンの調子が悪いみたいだ手伝ってくれ」

代永『』

鳥海「ぐはぁ」岩に叩きつけられる鳥海

代永『』

玄田「あのやろう返事もなしかあ」

代永『』

玄田が布をとる→代永が立ち上がり走る

玄田「・・・まじかよ。」

鳥海に向かう代永

代永「うおおおおぉ」

代永が走り込んでモンスターの攻撃を防ぐ

「ぐぐぐっ」

モンスターが代永の武器を狼爪でつかみ、押し合いになる

鳥海がおさえぎみの怒りで説教をしようとしたとき

鳥海「どうして戻ってきた？モンスターが怖いなら帰って待ってろって言っただろ。」

代永「ああ怖いさ体が縮こまって動けやしない…」

鳥海「だったら…」

代永「でも！モンスターよりも鳥さんを失うことが一番怖かった！」

鳥海「！！」

代永「いつも優しかった鳥さんが、いつもそばにいてくれた鳥さんが、いなくなるって考えたら苦しくて辛くて指を加えて待ってるなんでできないよ！」

鳥海「代永…」

代永「死んでほしくない！いなくなってほしくない！また一緒に冒険がしたい！だから僕は！僕の力で鳥さんを守るんだ。」

強く押し込まれる代永「うぐぅっ」

代永「こんなところで死なせてたまるかー」

鳥海「…へへっ ちょいとばかしお前さんをなめてたぜ そして」

モンスターをひるませる攻撃をする

鳥海「俺もなめられたもんだぜ」

鳥海「こんなところで死ぬような俺じゃねんだよ たく」

代永「とりさん…」

鳥海「そんじゃ俺たち二人でぶっ倒してやろうぜ」

代永「うん」

↓

巨大狼との対決

斬ってよけるの繰り返し

最後に一発代永が決める

↓

打ち倒す

↓

記念日として岩に彫り込む 時間がなければここでEND

↓

Dの回想に戻ってEND